

スーパーマーケット販売統計調査資料

9月実績 速報版(パネル 270)

8月実績 確報版(パネル 270)

(2020年10月21日公表)

調査資料概要

【パネル 270 社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:前月販売実績を速報値として公表 確報版:速報値に精度の高い集計を加え確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較 既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮三部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜	惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタペーパー、ファーストフード	
		日配	豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム	
		一般食品	調味料、瓶詰詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類	
非食品	日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具			
その他	テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)			

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城。山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州地方・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄
北日本日本海側	北海道の日本海側とオホーツク海側(宗谷南部)、東北日本海側
太平洋側	北海道の太平洋側とオホーツク海側(網走・北見・紋別地方)、東北太平洋側
東日本日本海側	北陸地方
太平洋側	関東甲信、東海地方
西日本日本海側	近畿日本海側、山陰、九州北部地方
太平洋側	近畿太平洋側、山陽、四国、九州南部
沖縄・奄美	鹿児島県奄美地方、沖縄地方

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2020年10月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2020年9月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	92,265,285	100.0%	102.1%	101.0%
食品合計	83,820,869	90.8%	103.5%	102.3%
生鮮3部門合計	32,517,089	35.2%	107.1%	105.7%
青果	13,787,005	14.9%	108.0%	106.6%
水産	7,957,137	8.6%	105.8%	104.4%
畜産	10,772,947	11.7%	106.9%	105.6%
惣菜	9,351,568	10.1%	100.8%	99.4%
日配	18,400,017	19.9%	103.9%	102.9%
一般食品	23,552,195	25.5%	99.6%	98.5%
非食品	6,118,305	6.6%	89.3%	89.5%
その他	2,326,158	2.5%	96.4%	96.6%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	12,673,554	43	101.9%	101.0%
関東地方	34,341,760	73	101.9%	101.0%
中部地方	11,483,097	53	104.3%	101.7%
近畿地方	19,621,913	44	102.1%	101.3%
中国・四国地方	9,357,993	34	104.2%	102.1%
九州・沖縄地方	4,786,968	23	96.7%	95.9%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	659,909	47	97.4%	99.5%
4~10店舗	4,423,245	79	100.8%	101.1%
11~25店舗	10,069,903	57	103.1%	101.3%
26~50店舗	15,941,748	43	101.7%	101.6%
51店舗以上	61,170,480	44	102.2%	100.8%

集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	90,332,263
総店舗数 (店舗)	8,019	店舗平均月商 (万円)	11,506
総売場面積 (㎡)	13,395,473	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.9

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2020年10月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2020年8月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	102,153,014	100.0%	107.7%	106.6%
食品合計	93,024,682	91.1%	108.7%	107.3%
生鮮3部門合計	36,111,498	35.4%	113.5%	112.2%
青果	15,523,062	15.2%	117.9%	116.6%
水産	8,875,118	8.7%	109.1%	107.8%
畜産	11,713,318	11.5%	111.5%	110.1%
惣菜	10,455,006	10.2%	100.7%	99.3%
日配	19,858,531	19.4%	108.8%	107.4%
一般食品	26,599,647	26.0%	105.7%	104.5%
非食品	6,667,191	6.5%	102.7%	101.0%
その他	2,461,192	2.4%	93.6%	93.8%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	14,380,671	43	105.4%	104.7%
関東地方	37,569,985	73	110.8%	109.8%
中部地方	12,897,242	53	107.2%	104.7%
近畿地方	21,403,880	44	105.8%	105.4%
中国・四国地方	10,399,677	34	108.4%	106.6%
九州・沖縄地方	5,501,559	23	101.2%	99.9%

保有店舗数別集計

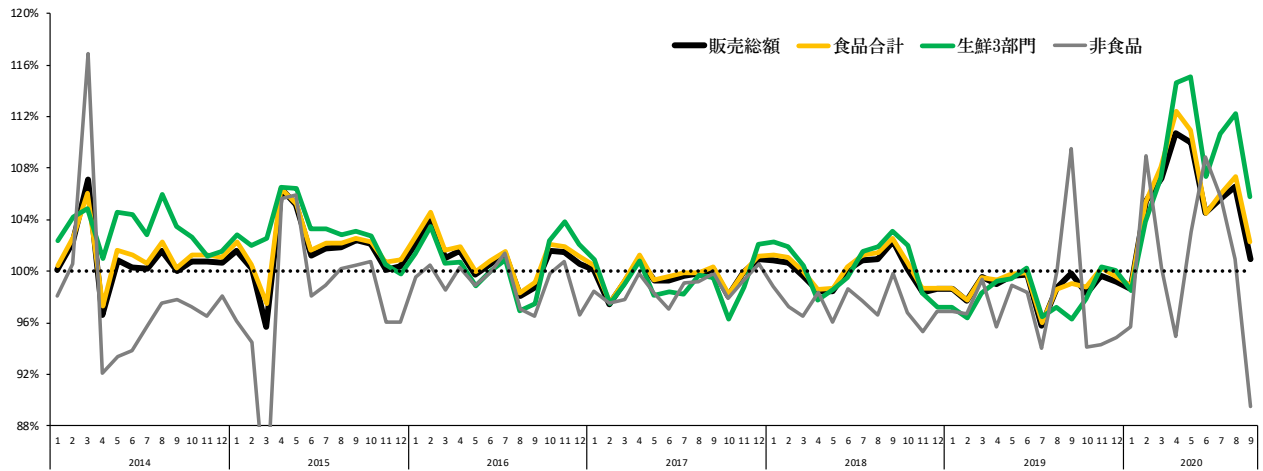
保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	746,805	47	101.4%	103.3%
4~10店舗	4,895,057	79	104.5%	104.6%
11~25店舗	11,271,543	57	106.7%	105.1%
26~50店舗	17,802,421	43	106.4%	106.3%
51店舗以上	67,437,188	44	108.5%	107.1%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	100,141,050	
総店舗数 (店舗)	8,020	店舗平均月商 (万円)	12,737	
総売場面積 (㎡)	13,400,623	売場1㎡あたり売上高 (万円)	7.6	

※売上高は税抜金額

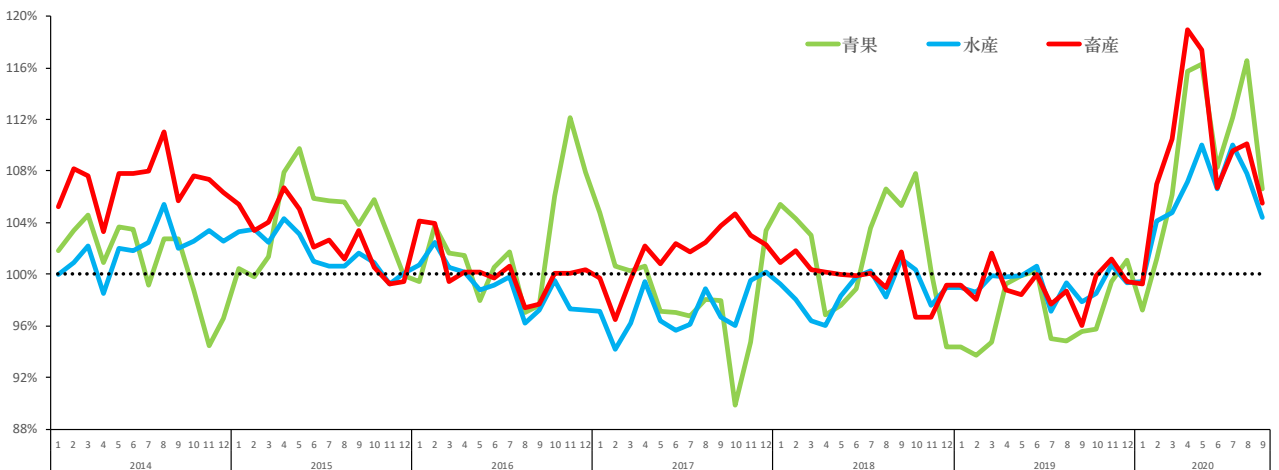
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計(パネル270) 既存店前年同月比推移 2014年1月～

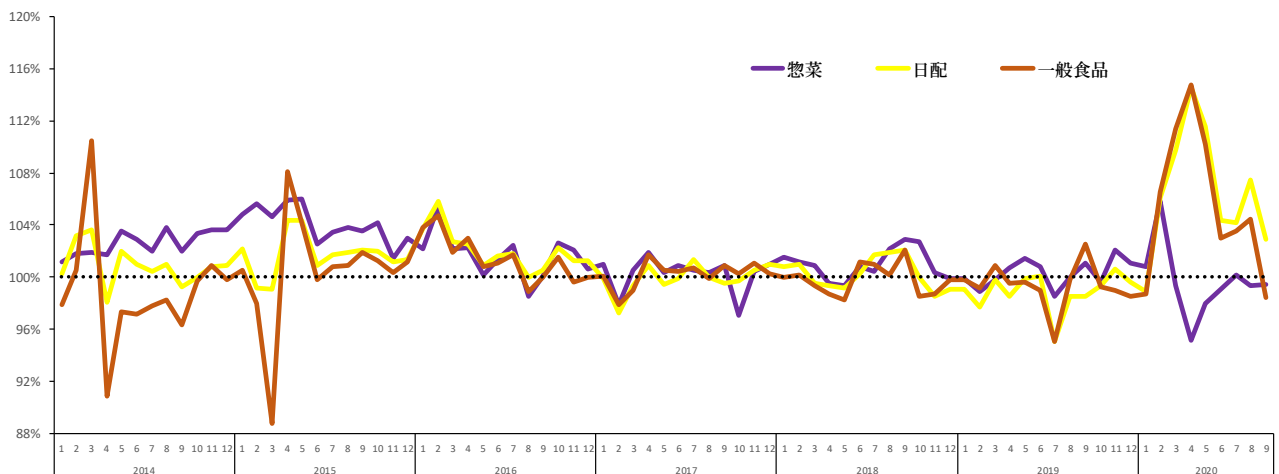
総売上高・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2020年9月実績は速報版

2020年9月エリア別気候状況

気温の特徴：北・東日本でかなり高く、西日本で高かった。

上旬：北・東・西日本でかなり高かった。

中旬：北・東日本と沖縄・奄美で高かった。

下旬：北日本で高かった。

2019年9月との比較：上旬は北・東日本日本海側で高く、中旬は西日本で低く、下旬は太平洋側を中心に低かった

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2020年9月			2019年9月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	4.2	1.4	0.7	2.6	0.1	1.1	1.6	1.3	-0.4
太平洋側	3.2	1.2	0.1	2.7	0.5	1.3	0.5	0.7	-1.2
東日本 日本海側	4.0	1.2	0.9	2.0	0.8	1.7	2.0	0.4	-0.8
太平洋側	2.2	1.7	0.3	2.2	1.1	2.7	0.0	0.6	-2.4
西日本 日本海側	1.8	-0.5	-0.2	1.8	1.5	1.5	0.0	-2.0	-1.7
太平洋側	1.4	0.2	-0.2	1.5	1.3	2.1	-0.1	-1.1	-2.3
沖縄・奄美	-0.1	0.7	-0.2	0.1	0.8	0.2	-0.2	-0.1	-0.4



日照時間の特徴：西日本太平洋側と沖縄・奄美でかなり少なかった

上旬：北日本日本海側でかなり多く、東日本日本海側で多かった。

中旬：北日本日本海側と西日本太平洋側でかなり少なく、北・東日本太平洋側と西日本日本海側で少なかった。

下旬：北日本太平洋側と沖縄・奄美で少なかった。

2019年9月との比較：上旬は全国的に少なく、中旬以降はかなりの多い地域が多かった。

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2020年9月			2019年9月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	79	91	136	125	93	80	-46	-2	56
太平洋側	78	152	124	138	81	78	-60	71	46
東日本 日本海側	90	113	145	159	108	57	-69	5	88
太平洋側	122	164	133	151	94	69	-29	70	64
西日本 日本海側	87	151	134	123	85	42	-36	66	92
太平洋側	105	164	128	120	79	47	-15	85	81
沖縄・奄美	97	126	63	78	76	121	19	50	-58



降水量の特徴：西日本太平洋側と沖縄・奄美でかなり少なく、北・東日本太平洋側と西日本日本海側で少なかった。

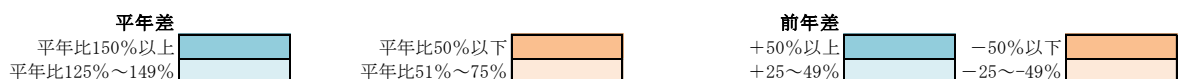
上旬：東日本と西日本太平洋側、沖縄・奄美で多かった。一方、北日本太平洋側で少なかった

中旬：西日本日本海側でかなり多く、北日本で多かった。一方、東日本太平洋側で少なかった。

下旬：東日本日本海側と西日本太平洋側で多かった。一方、北日本日本海側で少なかった。

2019年9月との比較：上旬は北・東日本で多く、中旬以降は全国的にかなり少なくなった。

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2020年9月			2019年9月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	200	90	84	129	132	142	71	-42	-58
太平洋側	88	54	86	105	122	144	-17	-68	-58
東日本 日本海側	176	67	19	18	135	288	158	-68	-269
太平洋側	12	14	59	19	124	130	-7	-110	-71
西日本 日本海側	90	32	48	44	143	376	46	-111	-328
太平洋側	11	8	75	42	290	222	-31	-282	-147
沖縄・奄美	162	28	362	263	116	20	-101	-88	342



気象庁報道資料「9月の気候」を参考に事務局作成
平年値は過去30年 (1981年~2010年) の平均

スーパーマーケット景気動向調査

2020年10月調査結果（9月実績）
（2020年10月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

10月調査（9月実績）結果概況

景気判断DIは現状・見通しともに前月水準

9月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI現状判断は、前月から-0.4の43.4、見通し判断は前月から-0.2の37.8となり、共に前月から大きな変化はなかった。

経営動向調査では、売上高DI、収益DI共にプラス幅を縮小した。前年消費税率引き上げ前の駆け込み需要の反動や台風の影響、日曜日が一日少ない曜日巡りの影響を受けた来客数DIが低迷したことが影響している。

カテゴリー動向調査では、堅調な家庭内消費需要が続いているおり、生鮮品DIは堅調な推移が続いている。一方で前年税率引き上げ前の駆け込み需要の対象となった商品カテゴリーを中心に反動減がみられた。運動会中止やイベント中止の影響を受けた惣菜DIはマイナス圏で推移している。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査はいずれのDIも前月水準で推移しているが、店舗周辺地域景気判断DIのみがやや上向き傾向をみせている。GOTOトラベルなどの施策により、外出や宿泊、観光の需要が高まったことが判断を下支えしている可能性がある。（長期傾向についてはp11参照）

感染拡大が小康状態となっているなかでも、家庭内消費需要は堅調な状況が続いている。10月以降、GOTOイートなど消費振興策により、食品消費にどのような変化が生じるのか、動向に注目したい。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月：43.4 (-0.4) 前月：43.8	消費者購買意欲DI 当月：44.9 (-2.8) 前月：47.7	周辺地域 競合状況DI 当月：44.1 (-0.4) 前月：44.5	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：43.4 (+0.8) 前月：42.6
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月：37.8 (-0.2) 前月：38.0	消費者購買意欲DI 当月：41.9 (-0.1) 前月：42.0	周辺地域 競合状況DI 当月：43.0 (+0.2) 前月：42.8	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：40.6 (+1.8) 前月：38.8
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：2.0 (-10.8) 前月：12.8	客単価DI 当月：21.7 (-2.3) 前月：24.0	来客数DI 当月：-20.8 (-5.4) 前月：-15.4	
収益DI 当月：8.6 (-4.6) 前月：13.2	販売価格DI 当月：6.4 (-3.2) 前月：9.6	生鮮品仕入原価DI 当月：11.5 (-7.3) 前月：18.8	食品仕入原価DI 当月：3.3 (-1.6) 前月：4.9

カテゴリー動向

青果DI 当月：16.0 (-12.6) 前月：28.6	水産DI 当月：7.1 (-3.0) 前月：10.1	畜産DI 当月：12.7 (-6.0) 前月：18.7	
惣菜DI 当月：-9.0 (+0.5) 前月：-9.5	日配DI 当月：7.6 (-9.1) 前月：16.7	一般食品DI 当月：-7.1 (-14.5) 前月：7.4	非食品DI 当月：-9.3 (-22.8) 前月：13.5

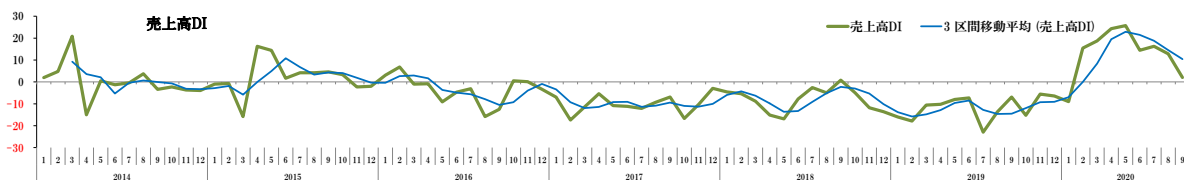
※DI値は前年同月との比較 / ()内は前月DIからの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

駆け込み需要の反動がみられるもプラス圏を維持

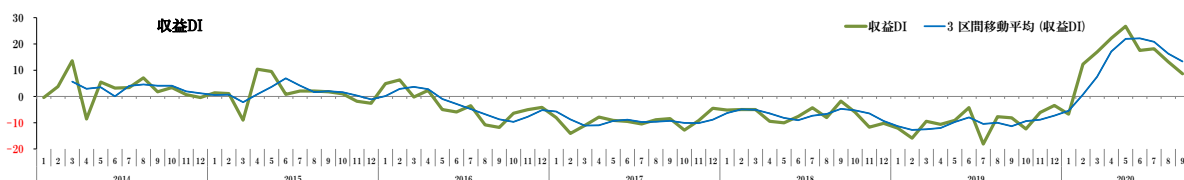
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	7.1	11.5	20.8	44.3	16.4	12.8
売上高 (当月)	7.5	27.0	22.0	36.5	6.9	2.0



2. 収益DI

ややプラス幅を縮小も高水準を保つ

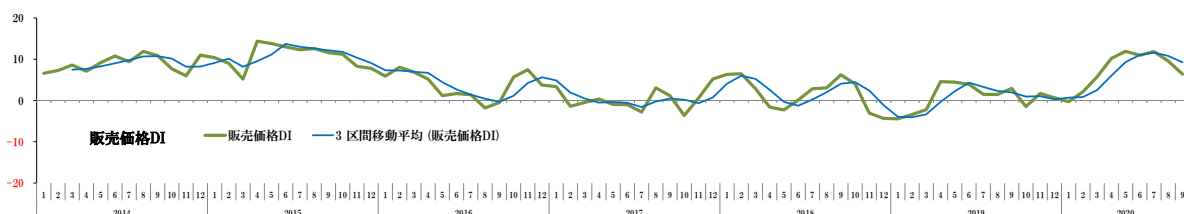
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	5.0	14.4	22.2	39.4	18.9	13.2
収益 (当月)	5.7	16.4	29.6	34.6	13.8	8.6



3. 販売価格DI

やや低下もプラス圏を維持

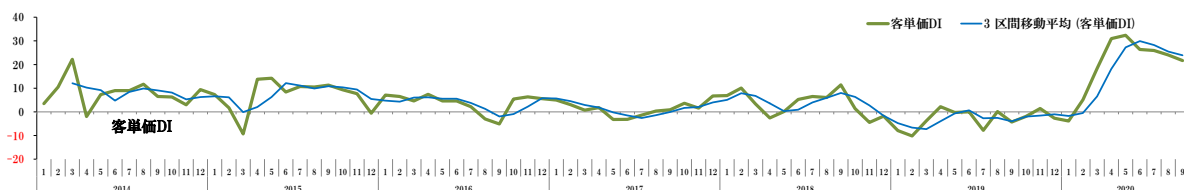
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.5	4.4	55.7	35.0	4.4	9.6
販売価格 (当月)	0.6	8.1	59.4	28.8	3.1	6.4



4. 客単価DI

やや低下も大幅なプラス圏を維持

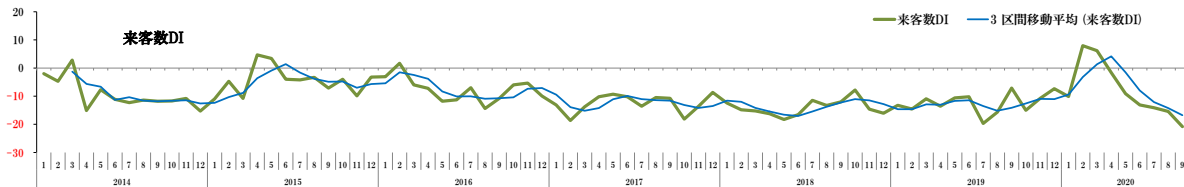
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	1.1	6.6	13.8	51.9	26.5	24.0
客単価 (当月)	0.6	5.7	19.0	55.7	19.0	21.7



5. 来客数 DI

マイナス幅を拡大し、調査開始以来の最低値を更新

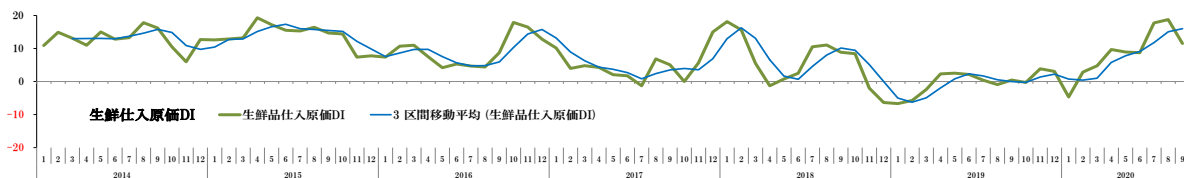
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	16.9	42.6	28.4	9.3	2.7	-15.4
来客数 (当月)	20.5	52.2	18.6	7.5	1.2	-20.8



6. 生鮮仕入原価 DI

プラス幅縮小も、二桁プラスを維持

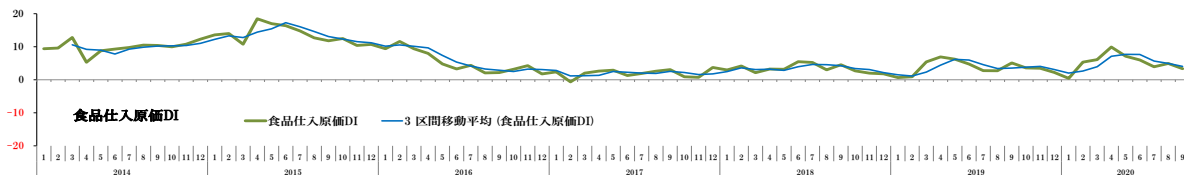
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	1.1	1.1	30.7	55.7	11.4	18.8
生鮮仕入原価 (当月)	0.0	5.8	48.1	40.4	5.8	11.5



7. 食品仕入原価 DI

小幅なプラス圏で底堅い推移が続く

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	2.8	2.3	68.9	24.3	1.7	4.9
食品仕入原価 (当月)	1.3	5.7	73.9	16.6	2.5	3.3

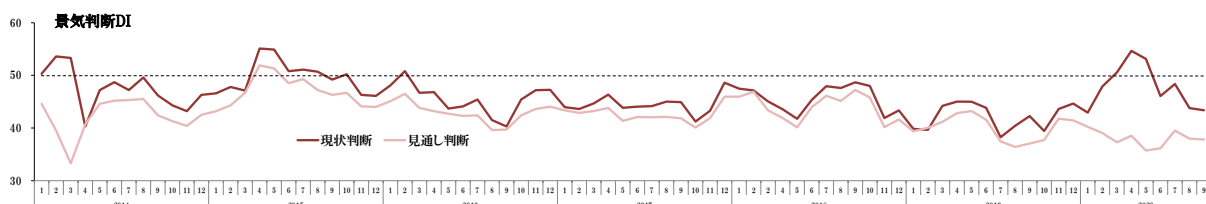


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景気判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

現状、見通し判断共に前月水準で推移

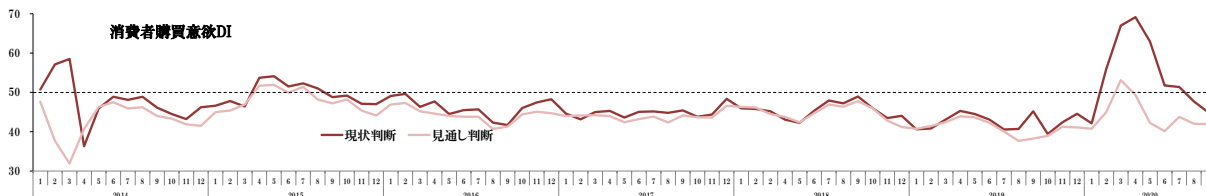
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	3.8	29.7	54.1	12.4	0.0	43.8
【現状】景気判断 (当月)	2.5	32.1	54.9	10.5	0.0	43.4
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	6.5	42.2	44.3	7.0	0.0	38.0
【見通し】景気判断 (当月)	5.6	43.2	45.7	5.6	0.0	37.8



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断はやや悪化、見通し判断は前月水準

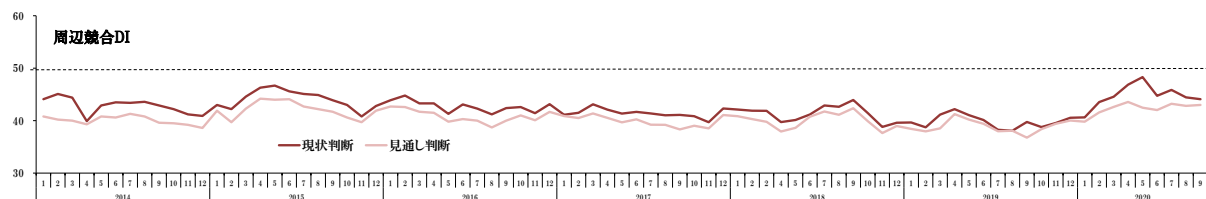
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	2.2	24.3	55.1	17.3	1.1	47.7
【現状】購買意欲 (当月)	0.0	34.2	52.8	12.4	0.6	44.9
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	5.4	32.4	51.9	9.2	1.1	42.0
【見通し】購買意欲 (当月)	3.7	36.0	49.7	9.9	0.6	41.9



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状、見通しとも前月水準で推移

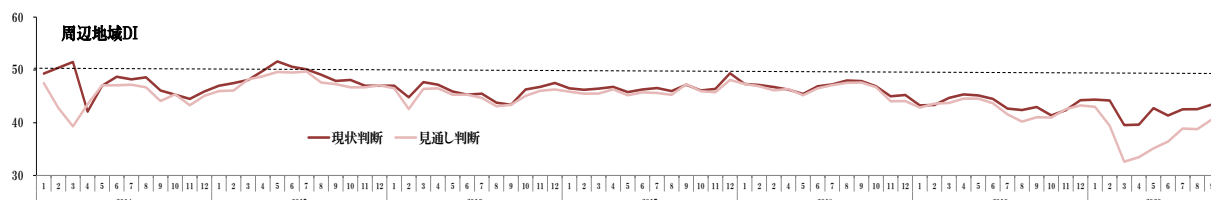
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	3.8	18.4	74.1	3.8	0.0	44.5
【現状】競合状況 (当月)	2.5	22.4	71.4	3.7	0.0	44.1
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	5.9	19.5	71.9	2.7	0.0	42.8
【見通し】競合状況 (当月)	3.1	25.5	67.7	3.7	0.0	43.0



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状、見通しともにやや改善をみせる

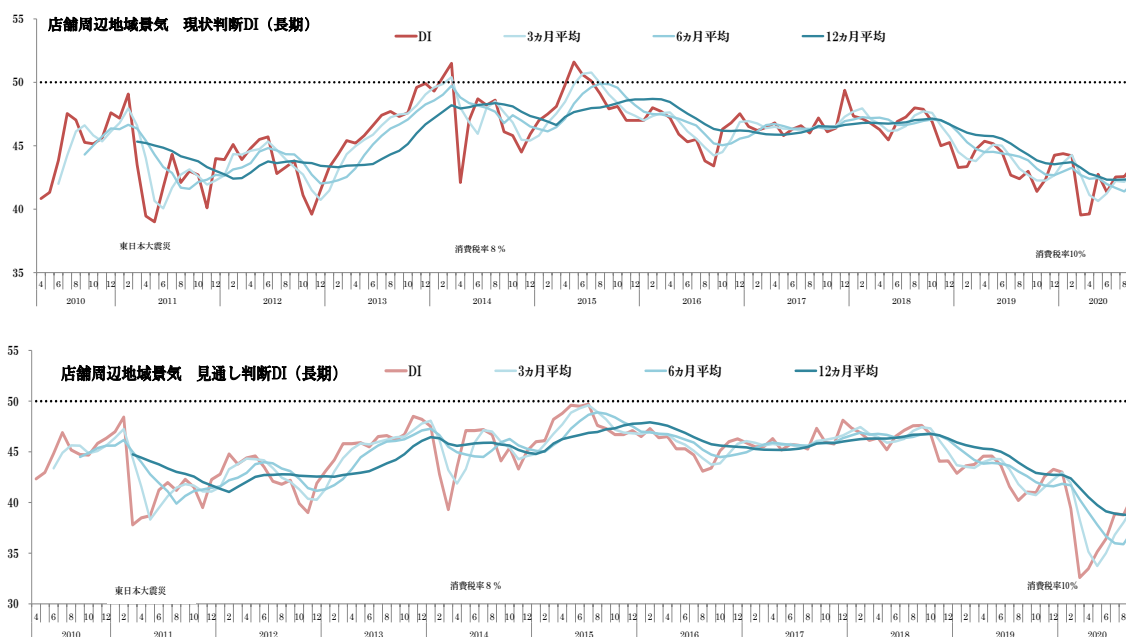
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	1.6	29.7	65.4	3.2	0.0	42.6
【現状】地域景気 (当月)	0.6	28.8	66.9	3.8	0.0	43.4
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	4.9	36.8	56.8	1.6	0.0	38.8
【見通し】地域景気 (当月)	3.1	35.0	58.1	3.8	0.0	40.6



・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

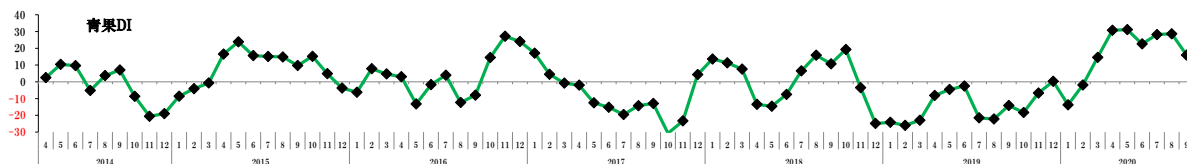
しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下した後、5月以降は持ち直しが続き、10月には移動平均を上抜けた。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：16.0（好調）

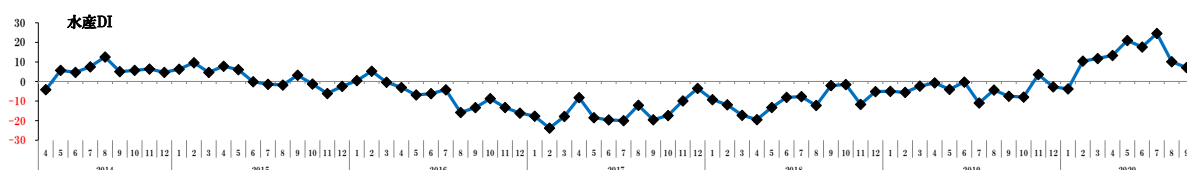
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	2.2	3.9	14.5	35.8	43.6	28.6
青果（当月）	3.3	12.5	17.8	50.0	16.4	16.0



青果相場の高騰も落ち着き、ほぼ前年水準に戻りつつある。引き続き家庭内調理需要が堅調と全般的に好調だが、特にじゃがいもや玉ねぎなど土物類は好調となった。中旬まで高い気温で推移した地域では、サラダ用野菜が好調となった。下旬から気温が低下し、月を通しては不調となったものの、キノコ類など鍋関連の食材の動きがよくなった。果物類は、輸入果物ではバナナやキウイフルーツが引き続き好調、国産果物ではブドウは好調だが、価格が高騰している梨は好不調まちまちとなった。

2. 水産DI：7.1（やや好調）

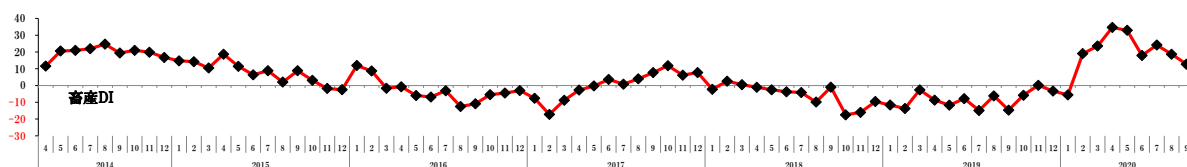
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	7.9	15.7	21.9	37.1	17.4	10.1
水産（当月）	5.2	18.8	31.2	31.8	13.0	7.1



引き続き外食自粛により内食需要は高止まりしており、全般的な相場安傾向により買上げ点数が増加しており好調が続いている。マグロやサーモンなどの刺身類は相場安で価格訴求しやすく好調となっている。鮮魚類では、さんまが不漁で大幅な不振となったが、変わって秋鮭やブリ、ハマチなどで売上を確保した店舗もみられた。家飲みでの珍味類やたらこ・明太子、ちりめん等の塩干が順調に推移している。

3. 畜産DI：12.7（好調）

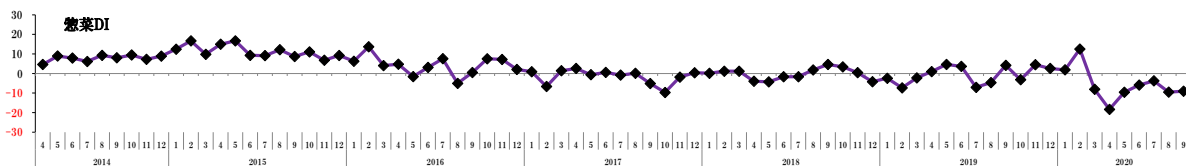
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	5.1	9.0	17.4	43.3	25.3	18.7
畜産（当月）	5.2	13.5	23.2	41.3	16.8	12.7



日曜日が一日少ない影響を受けたものの、引き続き外食自粛や家庭での調理用食材への需要は高止まりしており、全般的に好調となった。上旬は気温が高く、特に週末はステーキや焼肉用高級商材の動きがよかった。国産豚肉は相場高が続いているなかで伸び悩みがみられおり、輸入豚の売り込みを強化した店舗もみられた。下旬以降は鍋需要によりバラ肉や鶏肉が好調となった。ハム・ソーセージなど加工肉は、運動会中止の影響で不調となった。

4. 惣菜DI：-9.0（やや不調）

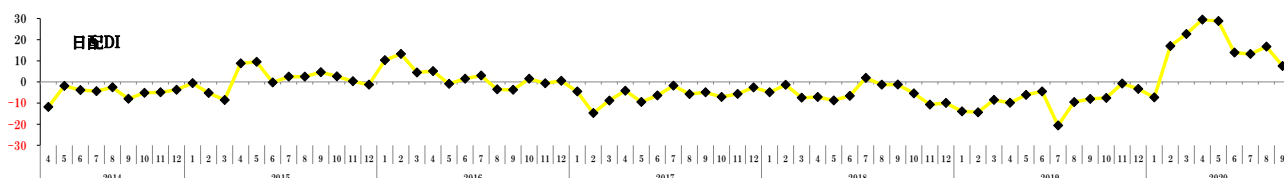
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	15.9	30.1	33.5	17.0	3.4	-9.5
惣菜（当月）	12.5	36.2	29.6	18.4	3.3	-9.0



引き続きイベント中止による予約販売の低迷や家庭内調理機会の増加による中食需要の低下により不振傾向が続いている。やや回復傾向も見られ始めてはいるものの、ばら売り販売自粛による影響を指摘するコメントが多かった。下旬から気温が低下したことで米飯類やホット惣菜の動きがよかった。家飲み用のおつまみや焼き物はこれまで同様堅調に推移した店舗が多かった。

5. 日配DI：7.6（やや好調）

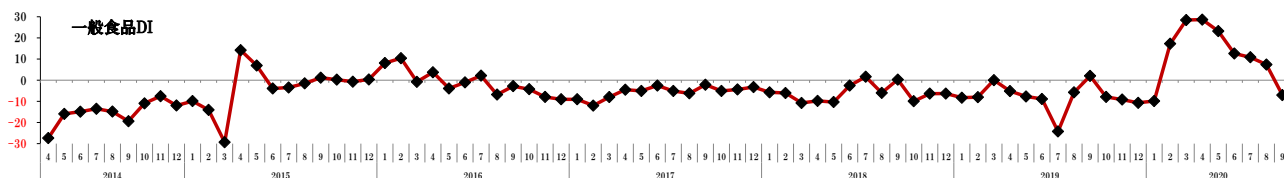
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	3.9	8.4	21.9	48.3	17.4	16.7
日配（当月）	1.3	22.6	29.0	38.7	8.4	7.6



日曜日が一日少ない影響で売上はやや伸び悩んだが、堅調な家庭内消費需要を背景にチルド商品、冷凍食品が好調な動向が継続している。上旬猛暑となった地域では、涼味系商材に特需がみられた。中旬まで不振であったホット商材や鍋商材は下旬に気温が低下により動きがよくなった。供給の回復したバター、チーズなどの乳製品は好調が継続している。台風の影響があった地域ではパン類に買いだめがみられた。デザート類やデザート調剤商材、家飲みのつまみとなる商品も好調となった。

6. 一般食品：-7.1（やや不調）

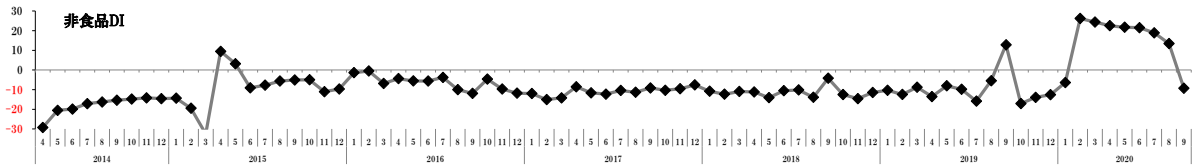
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	6.7	17.9	25.1	39.7	10.6	7.4
一般食品（当月）	11.5	34.0	31.4	17.3	5.8	-7.1



堅調な家庭内消費需要を背景に新米や調味料、手作り用商材が引き続き好調となっているものの、消費税率引き上げ前の駆け込み需要の反動から伸び悩んだ。酒類にも反動があった一方で、10月からの酒税引き上げを控えた駆け込み需要もみられた。また、九州地方など台風の影響（店休、買いだめ）を受けた地域がある一方で、前年台風の影響を受けた地域では特需もあったため、水や飲料、インスタント、レトルト食品の好不調動向はまちまちとなっている。

7. 非食品 DI：-9.3（やや不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	4.7	12.3	29.2	32.2	21.6	13.5
非食品（当月）	22.5	25.8	24.5	20.5	6.6	-9.3



伸び率は鈍化傾向にあるものの、マスクやハンドソープ、除菌用アルコール商品などが引き続き好調となった。前年の消費税率引き上げ前の駆け込み需要からの反動の影響を受けて不調となった商品が多かった。一方で10月からのタバコ増税前の駆け込み需要がみられた。台風関連で買いためがみられる電池やガスコンロなどにも特需と反動がみられた。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調：～20 好調：20～10 やや好調：10～0
 やや不調：0～-10 不調：-10～-20 かなり不調：-20～

2020年10月調査（9月実績）キーワードTOP3

1. 前年消費税率引き上げ前の駆け込み需要からの反動
2. 台風の影響（前年からの影響、今年の影響）
3. 日曜日が一日少ない

（参考）2019年10月調査（9月実績）キーワードTOP3

1. 高い気温
2. さんまの不漁
3. 駆け込み需要

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

9月実績速報版 162社
 8月実績確報版 185社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp